

東アジア学生ワークショップ参加報告書

京都大学文学研究科修士1年 額田聖菜

今回のワークショップでは体調を崩し、フィールドワークに2日間しか参加できなかったのは残念でしたが、通常の観光とは違い、生の韓国社会を見ることができました。私にとって今回は韓国への2回目の訪問でしたが、今回印象に残ったのは、韓国社会がとても多文化になっていることでした。中国朝鮮族のコミュニティに加え、Itaewon 地域では欧米人から中東の人々まで、外観からも外国人と判別できる人たちを多く見かけました。統計上、韓国では外国籍の人々が増加していると知っていましたが、外国人の受け入れが進んでいるのだと肌で感じるすることができました。前回の訪問の際には特に感じなかったもので、それだけ近年に急速に外国人が韓国社会に増えたのであろうと理解できました。

また、フィールドワークを通して、もっと東アジアの、そして日本の近・現代史について学びたいと感じました。Itaewon 地域のイスラム教のモスクは、朝鮮戦争に国連軍が参加し、その中にトルコ人兵士が居たことが起源であると知ったこと。徴兵に行った学生の話から、韓国においてまだ戦争は終わっていないと改めて感じさせられたこと。スーパーに多種陳列され、テレビで頻繁にコマーシャルの流れる SPAM から、沖縄やハワイと同じように、韓国にもアメリカ軍が居るという事実気付かされたこと。一見すると日本と変わらない穏やかな生活の中に、時として朝鮮戦争の色が濃く見えました。まだ朝鮮戦争が続いていることをひしひしと感じました。日本の学校教育の中で、近現代史の学習時間はとても短いですが、現代社会に強く影響を持つのは近現代史です。歴史的な位置付けや解釈が難しいことから、教育の場では回避されるのかもしれませんが、それならば自分でもっと勉強をし、現代社会を読み解くひとつのツールとしたいと思いました。

ワークショップの最後には毎年恒例のプレゼンテーションがありました。今年は例年に比べ、質問時間が15分と長くなりましたが、とてもよかったと感じました。まず、質問時間が長いので、何か自分も質問しなければいけないと感じ、集中して他の学生の発表を聞くことができました。また、たくさんの質問が出ることによって、理解や議論が深まったように感じました。自身が発表者となった際には、英語で質問に受け答えする貴重な機会になったと感じました。先生方の質問から、説明の足りていない点を指摘し、欠けている視点を提示するなどよい質問の仕方について気付くことができました。今年も、自分の発表の至らなさやソウル大学や台湾大学の学生の発表の質の高さを感じることができ、もっと頑張ろうと刺激をもらいました。東アジアワークショップに参加するのは3回目でしたが、今年も実りの多い経験となり、参加できてよかったです。